

天に恵れ 地に恵れ そして人に恵まれて！

市民運動会盛大に



力走するむかで

開会式に先立つこと一時間前、上川路の八幡社にて聖火がトーチに移され、小学生のみなさんにより、地区内をリレーして一周しました。その聖火が入場し、聖火台に点火され、運動会がスタートしました。

最初の種目「はつらつフィットネス」では、校庭一杯に参加者が広がり行われました。ここ数年続けてみられる光景で、竜丘が自慢できる一面面です。

子供たちのかけっこに続いて、最初の競技種目「メドレーリレー」で、各分館の代表選手による白熱した熱戦の幕がきました。スタートの二十代男子「麻袋」からのリードを守り、長野原分館が断突で一位でした。「親子で仲良くおみくじリレー」は、袋の中の長短

あるひもを引き、つないでいって早くゴールする競技ですが、お父さんお母さんが、ひもを結ぶことが先に立ち、子供を一瞬置いていってしまう、チョットしたハプニングも見られました。

「分館長に負けるな」は、他分館長とジャンケンを行い、勝ち抜けていくのですが、桐林と長野原の最後の選手のデットヒートは見ものでした。ジャンケンが桐林が先に抜けました。アンカーはボールを持ち、ゴールするため、二番手で抜けた長野原がゴール手前で桐林を抜き一位になりました。最後に残った時又分館と駄科分館の戦いは、なかなか分館長

あるひもを引き、つないでいって早くゴールする競技ですが、お父さんお母さんが、ひもを結ぶことが先に立ち、子供を一瞬置いていってしまう、チョットしたハプニングも見られました。

「分館長に負けるな」は、他分館長とジャンケンを行い、勝ち抜けていくのですが、桐林と長野原の最後の選手のデットヒートは見ものでした。ジャンケンが桐林が先に抜けました。アンカーはボールを持ち、ゴールするため、二番手で抜けた長野原がゴール手前で桐林を抜き一位になりました。最後に残った時又分館と駄科分館の戦いは、なかなか分館長



会場いっぱいの「はつらつフィットネス」

去る十月十二日に、平成二十年年度の竜丘市民運動会が行われた。竜丘に育った若い力の協力や、各分館の華やかな応援が会場を盛り上げるなか、二十種目の競技に千名余の地区民が参加し、盛大に行われました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,813人
男子 3,332人
女子 3,481人
世帯数 2,251戸
(20年11月末現在)

森で学び・森で遊ぶ

親子ふれあいハイキング

秋の気配が感じられるようになった十月二十五日、竜丘財産区にある、白井林イベント広場で、親子ふれあいハイキングが、六十人の参加者を集めて行われました。

身近な里山で、一年で一番好季節に、自然の中で、普段できない体験を思いっきりやりました。当日は早朝から枝打ちや下草刈りなどの作業を、財産区や里山愛護会の方々に付き添ってもらいながら、柄の長い剪定バサミを使って高い所の枝を整え、森を育てる山で

の仕事を親子で学びました。自分達でパンの生地をこねて、竹の器作りに挑戦、太い竹をノコギリ、ヤスリを使い思い思いのコップやおわん、箸を作り、家のお土産として楽しみました。

その後、シイタケがどんな木に、どうしたらできるかを学び、キノコのコマ打ちを来年の収穫を楽しみに、穴のあいた原木に、木づちを使って菌のコマを打ち込みました。

お昼が近づくと、恒例になっている、棒パン焼き作りの運動会では、準備段階から実行委員として、五名の中学生が参加しました。当日は、審判、準備の係として頑張ってくれました。最後に感想を聞いてみると、「地域の一員としての役割りを持って良かった。」と話してくれました。

片付けの際に木下館長より「今回は、天に恵まれ、地に恵まれ、そして何より人に恵まれた運動会となりました。」というように、老若男女、地区民のすばらしい交流の場となりました。

次に基幹道路網整備として、桐林大明神原線の桐林工区の早期実現に向けた取り組みについて質問をしました。市は国・県に関わる部分は強く要望していきたいと説明するとともに、桐林工区は現在予備設計の段階で、今後地元との協



竹を使った食器作り

十一月四日、市政懇談会が竜丘自治振興センターで行われました。今年六月に地域づくり委員会主催による「市長と語る会」が行われましたが、今回は地域協議会と地域づくり委員会の皆さん二十人が参加して小本曾副市長など市側の出席者と懇談しました。

初めに今村地域協議会会長が「住民が安心安全に暮らしていきたい。懇談会でより良い方向を見いだせれば」とあいさつしました。

まず、桐林クリーンセンターで協定値を超える濃度のダイオキシンが検出されたことについて、二度とこ

議に入る見込みであると応えました。また、天竜橋梁橋に伴う時又の拡幅改良については「県にプランを出すように要望してほしい」との意見が出されました。

雨水対策については宅地化の進行で農地のダム機能がなくなり、水があふれるとの状況を説明したのに対し、緊急を要する場所に対応すると回答がありました。

今回の懇談により、竜丘がより住みやすい地区になればと思います。



活発な意見交換がされた懇談会

とにか、総理大臣が変わろうが、各大臣が変わろうが、大臣ポストの名称が変わる方が、やるべき事は変わらない。国民のための政治ではなく、国民のための政治に取り組みたい。

変わったといえ、三遠南信自動車道の山本、天龍峡間の開通により、周辺の風景が一変した。交通網の整備は、地元の産業や観光にとって大きなプラスになり、その結果若者の雇用が増加すれば素晴らしいことだと思ふ。ただ、風越山を背に南アルプスを望む、風光明媚なこの地で育った私にとっては、あまり変わってほしくない風景である。

総理大臣が変わった。麻生総理の誕生だ。最近、随分早く総理が交替すると感じるのは私だけか、確か前職が福田さんで、その前が安倍さん、小泉さん、森さんだと思う。あと誰だっけ。私の記憶力が衰えてきたのか、総理大臣の印象が薄いのか、小泉元総理以外あまり顔が浮かんでこない。とにかく一国のトップだけに真摯に働いてもらいたいものだ。

さて、総理大臣が変わると各大臣も変わる。内閣改造などもあるので随分変わる。いきなり気の毒な立場で頑張ってる、舛添大臣以外誰が誰やら...

それどころか大臣ポストの名称すら変わる。防衛庁が防衛省になったのは最近なので憶えているが、お金を預かる代名詞とされてきた大蔵省は、気が付くと財務省になり、厚生省と労働省が一緒になっていた。加えて必要に応じて担当大臣をおくのだから憶えられるはずがない。

最後の競技種目「年次むかで」は、女性、男性別々に行われました。各年代五人一組にてリレー方式で行われ、「いちに、いちに」と掛け声を合せて各チームが力走を見せました。女性のむかで終了時点で長野原分館の四連覇は決まりましたが、男性のむかで一位を勝ち取り、優勝に花を添えました。

今回の運動会では、準備段階から実行委員として、五名の中学生が参加しました。当日は、審判、準備の係として頑張ってくれました。最後に感想を聞いてみると、「地域の一員としての役割りを持って良かった。」と話してくれました。

片付けの際に木下館長より「今回は、天に恵まれ、地に恵まれ、そして何より人に恵まれた運動会となりました。」というように、老若男女、地区民のすばらしい交流の場となりました。

次に基幹道路網整備として、桐林大明神原線の桐林工区の早期実現に向けた取り組みについて質問をしました。市は国・県に関わる部分は強く要望していきたいと説明するとともに、桐林工区は現在予備設計の段階で、今後地元との協

議に入る見込みであると応えました。また、天竜橋梁橋に伴う時又の拡幅改良については「県にプランを出すように要望してほしい」との意見が出されました。

雨水対策については宅地化の進行で農地のダム機能がなくなり、水があふれるとの状況を説明したのに対し、緊急を要する場所に対応すると回答がありました。

今回の懇談により、竜丘がより住みやすい地区になればと思います。

とにか、総理大臣が変わろうが、各大臣が変わろうが、大臣ポストの名称が変わる方が、やるべき事は変わらない。国民のための政治ではなく、国民のための政治に取り組みたい。

変わったといえ、三遠南信自動車道の山本、天龍峡間の開通により、周辺の風景が一変した。交通網の整備は、地元の産業や観光にとって大きなプラスになり、その結果若者の雇用が増加すれば素晴らしいことだと思ふ。ただ、風越山を背に南アルプスを望む、風光明媚なこの地で育った私にとっては、あまり変わってほしくない風景である。

総理大臣が変わった。麻生総理の誕生だ。最近、随分早く総理が交替すると感じるのは私だけか、確か前職が福田さんで、その前が安倍さん、小泉さん、森さんだと思う。あと誰だっけ。私の記憶力が衰えてきたのか、総理大臣の印象が薄いのか、小泉元総理以外あまり顔が浮かんでこない。とにかく一国のトップだけに真摯に働いてもらいたいものだ。

さて、総理大臣が変わると各大臣も変わる。内閣改造などもあるので随分変わる。いきなり気の毒な立場で頑張ってる、舛添大臣以外誰が誰やら...

それどころか大臣ポストの名称すら変わる。防衛庁が防衛省になったのは最近なので憶えているが、お金を預かる代名詞とされてきた大蔵省は、気が付くと財務省になり、厚生省と労働省が一緒になっていた。加えて必要に応じて担当大臣をおくのだから憶えられるはずがない。

充実した展示・催事で終日大盛況

竜丘地区文化祭



特別企画展室

十一月八日、九日の両日、平成二十年度の竜丘地区文化祭が、竜丘公民館で行われました。特別企画展や盛りだくさんの展示、催しが、行われ、多くの地区住民の皆さんが訪れて終日賑わいました。

当日は、公民館前にてオープニングセレモニーが行われ、テープカットで文化祭が開幕しました。

館内は、ホールをはじめ各種団体やグループの日頃の活動成果など、さまざまな展示品が所狭しと飾られ、その一つひとつは訪れた方を魅了させてくれるように創意工夫されていました。

特別企画展は「木下茂男(紫水)と竜丘小学校の自

由教育」。大正時代の竜丘小学校は、自由教育の実践校として全国的にも有名でした。大正デモクラシーという時代の流れもありましたが、この自由教育の実践評価については、竜丘地区に教育的土壌として位置づけ、多くの方々から語り伝えられてきて竜丘に残っています。

当時木下茂男がどんな実践があったかを検証し、竜丘小学校の自由教育を明らかにすると同時に、地域の方々の理解が深まることを願って企画されました。

展示室には、紫水の作品の竜丘小学校沿革年表や紫水の書画、著書山本鼎、鈴木三重吉、中山

晋平、野口雨情らとのかわりの資料などが陳列、掲示されました。

現代、様々な分野で教育問題が議論されていますが、一世紀近く前の竜丘でのこの実践から学ぶものも多々あるのではないのでしょうか。

各分館の展示では、心に残そう三代目天竜橋と変わりにゆくと又の思い出・・・をテーマし、歴史の天竜橋の写真や絵画を中心に展示しました。その作品からは、区民の皆さんの時又への思いが伝わってきました。

催し物では、子供達に人気の財産区のクラフト工作、掘り出しものいっぱいのお菓子、フリーマーケット、豪華な賞品が盛りだくさんだった餅＆宝投げ等、多くの人が訪れ盛況でした。

喫茶、軽食コーナーも、どれも好評で終日賑わい、来場者の皆さんは舌鼓をうっていました。

今回の文化祭では、小学

校の体育館で、体育委員会による、健康を維持する歩き方講座が行われました。

一九八八年ソウル五輪で競歩競技日本代表、現在NPO法人ウォーキング普及協会オウルプロ理事長の酒井浩文さんを講師に招き、疲れにくく、早く、きれいに歩けるウォーキングについてのお話と歩き方の実践をやっていただきました。近年、メタボリック症候群が話題となりウォーキング愛好者も増えている中で、より楽しく歩けるようになったのではないのでしょうか。

今回の文化祭に訪れた人たちは、思い思いに展示や催しを楽しみ、ふれあいがあったことと思います。これを機会に、より一層の竜丘地区の学習や文化活動の発展が期待されると感じました。

研修会に参加して

長野原 前 沢 喜代美

竜丘地域づくり委員会・竜丘自治会の合同研修会が十月二日、三日に行われ二十三名が参加しました。研修の目的は「三遠南信トンネル現地の視察」と「グラウンドワーク三島まちづくり」の視察です。

一日目は国道一五一号を通り鳳来I・C建設工事現場へ到着、国道事務所係りの方から工事の工程の説明を聞き、案内で「ヘルメット」「マスク」足にビニールを巻き「名古トンネル」の中に入り作業の現場を見学。全長の五十%が掘削されたことでした。次に三遠トンネルを見学。入った所は避難杭で、本杭へ渡り、トンネルの大きさに驚かされました。

二日目はNPOの方の案内で「三島のまちづくり」を視察、三島は富士山からの湧水が街中に湧き出て「水の都」と呼ばれていた

たのは避難杭で、本杭へ渡り、トンネルの大きさに驚かされました。市街地を流れる一・五kmの川の中に木の歩道が作ってありました。そこも散策し、途中でホタルを孵化している女性の庭で二ミリの稚虫を見せていただきました。

この方は川の掃除を三十年続けて「そのおかげで健康だ」と、その言葉が印象に残りました。三島は三つのキーワードがあり、その一つ「身近な環境にできることから取り組もう」です。道路、川もゴミもな



減り、ゴミが捨てられ汚れた川となってしまった。風景を取り戻そうと市民企業・行政が一体となって活動を行い、今では子どもたちが水遊びをしたり、ホテルが乱舞するようになってきた。

「古墳」を後世に引き継ぐために 検討委員会発足

十一月二十五日に竜丘公民館で、「古墳」を後世に引き継ぐための検討委員会が発足しました。

竜丘の古墳は、百四十基を超える飯田下伊那で随一といわれる貴重な遺跡です。このロマンあふれる古墳文化を原点とした地域の魅力を再発見し、後世に引き継いでいこうと有志約五十人が集まりました。

会長には、竜丘古墳の考える会と塚原古墳公園・臼井秘境遊歩道整備委員会代表の下平隆司さんが、副会長には竜丘地域づくり委員会の今村健委員長、竜丘公民館の木下陸奥館長が就任しました。

これまでも、古墳の保全に各種団体などが精力的に活動をしてきましたが、川路バイパスの開通などで状況も変わり、今まで通りに

保全していかれるか課題となってきました。改めて、古墳について学びながら将来に向けた保存と活用の方角について考え、総合的な構想を策定し、地区全体として継続性のある活動に繋がっていくとしています。

発足に伴って学習会が開催され、下平会長が現在と昭和二十年代の古墳の写真を比べ、周囲の宅地化により外観が分からなくなったり、崩落し石室に入れなくなったり、保護活動による修復や外見を取り戻した古墳を紹介し、このままでいいのか、なぜ後世に残すのか、私たちが何をしなければいけないかを訴えました。

古墳はこの地にすむ私たちにとってかけがえのない資産ですが、知らないことも多く、学びながら、後世に伝えていける活動となるよう取り組んでいきたいものです。



ウォーキング活動の様子

栄カホカあいらびの輪

あいらび運動

「おはようございます」「行ってきます」「行ってらっしゃい」と朝の通学路で、元気な声が聞かれました。今年も十月十四日から十月十六日まで、あいらび運動が実施され、公民館・PTA・小学校の先生方・子供を守る会の方々が、街頭に立ち、あいらび運動の現地指導を行いました。

通学路の距離が異なる為場所によって子供たちの通学時間も異なるので、街頭に立っている時間に通学する子供が少ない場所もありました。

指導時の感想として「初日は、あいらびができない児童や、照れながら小さな声の児童も見つけられたが、二日目、三日日には積極的に大きな声であいらびしてきた。」

あいらびの他に、「おいさん知ってる」「おいさん知ってる」などの短い会話も交えコミュニケーションをとるなど聞かれました。

通学路の問題点や、危険な箇所なども街頭指導の中で指摘が

ありました。子供たちが安全に通学できる様に、今後地区で取組んでいく大切な課題です。

「あいらびは、人の笑顔を見る言葉」の標語のように、地区の方々や子供たちがあいらびを通して、ふれ合える大切な場となりました。

「続々々丘の語部たち」 歴研賞受賞

竜丘の歴史を語りつぐ「続々々丘の語部たち」心ゆたかに今を生きて」が、飯田下伊那の地域史研究に多大な貢献をするものであり、歴史研究奨励賞を受賞しました。

「続々々」と本の頭に付く「丘の語部たち」の第一巻目は昭和五十六年に刊行され、今回で第四巻目になります。「丘の語部たち」は、竜丘公民館の「民俗資料保存委員会」が昭和四十九年三月に専門委員会として発足し、竜丘地域の歴史、生活、文化についてを後世に伝え、残すよう発刊されてきたのがこの本です。この本は、発刊から三十年に渡って、約三百人もの人達が自分達の目から見た地域の出来事、生活文化、生活史、事件や戦争など様々な生活空間がどんなのであったかが描



「続々々丘の語部たち」歴研賞受賞式の様子